

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
訪問介護技術演習Ⅱ（こころとからだのしくみと生活支援技術） Seminar on Techniques for Visiting Care-Giver Ⅱ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		
1単位	演習	選択	（訪問介護員ユニット必修）	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
「訪問介護員講座Ⅰ」「訪問介護員講座Ⅱ」「訪問介護技術演習Ⅰ」「訪問介護技術演習Ⅲ」				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
和田 晴美	福祉棟2 F	月・火・水 授業時間以外	授業中に指示します	
授業の概要				
訪問介護技術演習Ⅱでは、環境調整と家事、食事、排泄及び終末期の介護について学ぶ。まず介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解したうえで、これに関連させながら、安全で的確な介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の留意点等を講義・演習を通して習得する。				
授業の到達目標				
①環境調整・家事・食事・排泄・終末期の介護の意義と目的を理解できるようにする。 ②介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得できるようにする。 ③安全で的確な環境調整・家事・食事・排泄・終末期の介護を行うための基礎的技術を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義で知識を学び、学内での演習を通して技術の習得を行う。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。また、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。				
学習の成果				
①利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙することができる。 ②家事援助の機能と基本原則について列挙することができる。 ③食事の意味と食事を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、安全に介助することができる。 ④排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、安全に介助することができる。 ⑤ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携（ボランティアを含む）について、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	環境整備① 快適な居住環境整備と介護			
第2回目	環境整備② 環境調整の技法（演習①）ベッドメイキング【課題1】			
第3回目	環境整備③ 環境調整の技法（演習②）シーツ交換			
第4回目	生活と家事① 家事と生活の理解			
第5回目	生活と家事② 家事援助に関する基礎的知識と生活支援			
第6回目	食事① 食事に関する基礎知識			

第7回目	食事② 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 食事に関する利用者のアセスメント	
第8回目	食事③ 安全で的確な食事介助の技法（演習③）【課題2】	
第9回目	排泄① 排泄に関する基礎知識	
第10回目	排泄② 排泄の意義と目的 利用者のアセスメントと安全で的確な排泄介助の技法	
第11回目	排泄③ 安全で的確な食事介助利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習④）おむつ交換【課題3】	
第12回目	排泄④ 利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習⑤）ベッド上排泄	
第13回目	終末期介護① 終末期に関する基礎知識	
第14回目	終末期介護② 終末期ケアとは 高齢者の死に至る過程 臨終が近づいた時の兆候と介護 基本的態度	
第15回目	まとめと定期試験	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	評価基準Sは、授業の準備（テキスト、配布資料等）が整い、授業に集中している。ディスカッション場面では他者の話に耳を傾け、自らの意見も積極的に述べるができる。
レポート	30%	演習時の振り返り用紙で評価する。評価基準Sは、提出期限を厳守していること。自分の体験による感想のみならず、利用者側に立ち自身の介護を振り返ることができおり、課題が明確に記載できていること。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験	50%	穴埋め問題、文章を読み○×を付けたときの組み合わせの選択問題等
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①介護職員初任者研修課程テキストシリーズ 3巻（日本医療企画） ②生活支援技術の手引き		
履修上の心得・ルール		
この授業は、訪問介護員資格取得のための必修科目である。講義・グループワークとも積極的に参加すること。欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い届出等は速やかに提出すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。演習時は身だしなみを整える。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。		